

戦争はいらない

小信中島小学校

五年

吉田

和花

「ひめゆりの塔」をプライムビデオで見ました。なぜなら、お母さんにいっしょに見ようとした。なぜなら、お母さんにいっしょに見ようとした。その日の夜はこれくらいおなごれませんでした。夜中の三時になってもねむれなかった。お母さんを起こして水を飲みました。このえい画が、こんなにこわいとは思いませんでした。一番印象に残っている所は、かくれる場所がなくなりました。

時、指令を出す人が、「船散！分かれてにげなさい！」とアメリカの兵士がすぐ近くにきているのに言「たところです。私だ」たら、国に見すてられたと思います。それから、アメリカにつかまると、ひどいことをされると教育されて、つかまるくらいだ。たら自分たちで死んだほうがましだ。と自決した人たちもいたし、すぐそこまでアメリカ兵が来ていて、どうしようもないときに、アメリカ兵によばれていました。だけどその場をはなれず

にじ。としていたら、日本人にガスをなげられ、息ができずに死んでしまいました。でも、助か。た人達もいました。アメリカ兵が来た時に、ほりよになるかは分からないからと言。て両手を上げて、出て行きました。先頭に出てい。た人はすごいなと思いました。他の人達もそうすれば良か。たのにと思います。そして、今年は広島に行きました。お母さんが前日に広島に行きたいと言いました。なぜなら、戦後八十年のふし目だからと言って、せ。かくだからと行くことになりました。始めに行。た所は、「原ばく資料館」です。資料館では、原ばくの被害が伝わ。てきました。絵では、皮ふがうでからたれ下がるほどの、大やけどで、みんなはだか。かみの毛は燃えてボサボサで、せい別も分らないくらいひどい人もいました。写真では、皮ふがホロホロで、病院にはベ。トがなく、床にねかされていました。実際にひばくされた人達の絵や、当時の白黒写真を見て、私はすごく苦しくな

りました。なぜなら、とてもつらそうだった
からです。暑いし、いたいし、さびしいし、
こわかったと思います。夏だったので暑いと
思うし、皮ふはぬけているし、家族はいな
いし、いつ死んでしまいか分からないからで
す。とてもむねが苦しくなりました。そのよ
うな人がたくさんいたと思うと、とてもこわく
なります。来場者の中には、気分が悪くな
て、はいてしまったり人が三人もいました。私
は、たおれる人がいるなんて、思っていますせ
んでした。

私は戦争は反対です。なぜなら、悲しくて
苦しい思いをするのが、いやだからです。戦
争で死ぬのはいやだからです。人は必ず死ぬ
けれど、戦争による悲しい死に方をすること
は、なくなります。もう、二度とあんな悲げ
さをくり返してはいけません。戦争は、国同
士の大きなけんかです。そのけんかを話し合
いで解決できれば、戦争は起きません。この世
界に、戦争はいりません。